

8・岩手県下の状況に関する概要報告

神庭 信幸 東京国立博物館 学芸研究部 保存修復課長

1. 被災現場からの移送

岩手県教育委員会と岩手県立博物館が連携し、県内の関係機関のネットワークの支援を借りて平成23年4月初めから本格的な活動開始。7月までに20か所以上でレスキューを実施。最も大規模な施設が陸前高田市立博物館で約20万点。釜石市役所行政文書2万点。平成23年度でほぼ終息したが、建物の取り壊し工事に伴う最終点検で平成24年度中にも一部資料の救出作業が発生している。

2. 一時保管環境整備、安定化処理の実施

陸前高田市立博物館・海と貝のミュージアム・市立図書館・埋蔵文化財整理室の資料は、旧陸前高田市生出小学校、岩手県立博物館、全国の自然史系博物館、県内の冷凍倉庫に分散保管。平成23年7月より11月、保管環境の整備をレスキュー委員会の支援を受けて実施。資料整理と脱塩とクリーニングを優先的に実施する安定化処理を紙資料、自然史資料に対して実施。安定化処理を終えた資料に関する本格修理仕様策定。

岩手県立博物館、陸前高田市立博物館（旧生出小学校）、東京国立博物館において、教科書類、古文書類、美術作品などの洗浄・脱塩・乾燥による安定化処理が平成24年度中に実施された。また、国立国会図書館ではリーフキャスティングを用いた吉田家文書の本格的処置が独自経費によって開始された。陸前高田市立博物館所蔵の写真資料は、全国美術館会議の支援を受けて早稲田システム開発株式会社による処理が進められている。

救援委員会によって仙台市内の冷凍庫に一時保管されていた紙資料を、岩手県の手配によって盛岡市内の冷凍庫に移送した。今後は処理が完了するまでの間、この冷凍庫内で保管されることになる。

3. 本格修理の実施

陸前高田市立博物館では被災ミュージアム再興事業による補助金を用いて、平成24年度から安定化処理を終えた被災資料の本格修理に着手した。具体的には、拓本はNPO法人文化財保存支援機構（NPO JCP）、染織品は女子美術大学、動物剥製標本は岡山理科大学、骨角器は奈良文化財研究所などで処置が開始された。

4. 被災ミュージアム再興事業の開始

陸前高田市立博物館被災資料修復・保管事業、大船渡市立博物館被災収蔵資料修理保管事業、釜石市郷土資料館被災資料保存事業、山田町の文化財再興事業など約338百万円を実施した。陸前高田市では環境制御が可能な保管庫の設置、拓本・染織・紙資料・動物標本等の本格修理の開始、民俗資料の安定化処理の本格的実施である。大船渡市では被災した収蔵庫において資料の整理・配架作業、釜石市では被災資料の保存処置、山田町では展示室内の環境整備などが実施された。

5. 展示・普及・教育活動

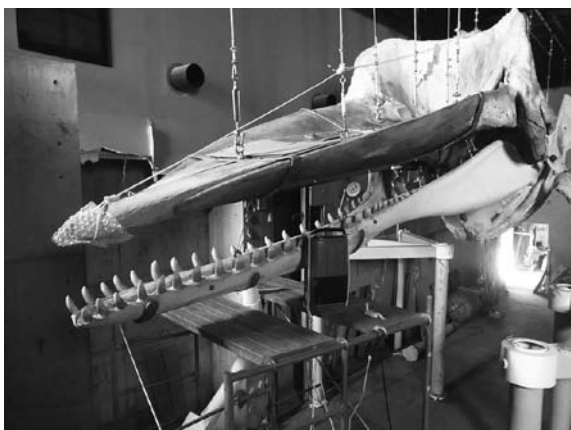
岩手県立博物館では、平成24年度テーマ展として『2011.3.11 平成の大津波被害と博物館－被災資料の再生をめざして－』を平成25年1月5日（土）から3月17日（日）まで開催し、岩手県下におけるレスキュー活動やその後の安定化処理や本格修理について一般に公開した。展示会の開催に合わせて、2月10日（日）と11日（月）にシンポジウムが行われた。基調講演「被災文化財の再生と博物館施設の復旧～震災2年後の状況～」、岩手県山田町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、宮城県石巻市、福島県いわき市など、各地域の状況報告がなされた。

文化財保存支援機構、東京国立博物館、陸前高田市教育委員会、陸前高田市立博物館、岩手県立博物館の共催で保

存修復家養成実践セミナー「陸前高田学校」を開催した。
平成 24 年 7 月 30 日から 8 月 9 日の期間、旧生出小学校
において被災区域外から 7 名、被災地域から 6 名、計 13
名の受講生が参加して開催した。



M 家住宅の被災状況



鯨と海の科学館にて実施中の骨格標本の乾燥作業



岩手県立博物館平成 24 年度テーマ展風景